英、水爆実験を強行
国民の怒り遂に爆發
英大使館前で抗議集会

英国は十五日ついに世界世論の反対をおしきつてクリスマス島での水爆実験を強行した。

東京では十六日朝ラジオで〃実験強行〃の報をきいた学生、市民などが、「マクミラン地獄へ行け」「ストツプ・ザ・テスト（実験やめよ）」などのプラカードや旗を手に昼ごろから千代田区一番町の英国大使館前にかけつけて抗議した。東京外大、専修大、早大などでは昼休みに抗議集会をひらいて代表を大使館におくつた。午後一時ごろ大使館についた約三十名の学生代表は大使館員へ面会を求め「四人の代表と会う」との約束をとつたが、午後二時大使館側は警官を動員して学生を追い出し「面会しない」と答えた。怒つた学生たちは、午後二時半到着した日本原水協代表と合流して大使館前で抗議集会を行つた。この間にも学生や市民の数はふえ、午前三時約三百名。抗議集会は日本政府へ要請を伝える代表と大使館に抗議する原水協代表をおくり、両代表の報告をきいた後、〃原爆ゆるすまじ〃を歌い、「実験ハンタイ!」を三唱して午後四時半解散した。

なお、女子一名をまじえた中央大学学生自治会代表九名は十六日午後一時から、大使館前千鳥が淵公園で四十八時間の抗議ハンストに入つた。

〃原水爆は廢止しない〃
英大使館、原水協代表に答える

日本原水協代表井田保（日教組）森田実（全学連）櫛田ふき（婦人民主クラブ）田村巌（高知原水協）の四氏は、十六日午後三時から約一時間にわたつて英大使館セルビー参事官、ヒル書記官と会見、水爆実験に抗議した。代表たちの話によれば、大使館側は抗議に対して「英国は原水爆を廃止する意志はない。原水爆は戦争防止に役立つ」「原水爆のもたらす危険は恐るるに足りない」ことをくりかえし、「原水爆について米英ソの協定を結ぶ意志はないか」との代表の問には「このような質問は聞きあきた。答える必要はない」とのべた。

〃岸發言取消さぬ〃
官房長官語る

日本原水協代表天瀬千鶴氏（婦団連）ら六名は十六日午後石田官房長官と会見、(1)日本政府の名で英国に抗議してもらいたい。(2)実験海域に調査船団を派遣してもらいたい。(3)「核兵器はもち込める」との岸首相発言をとり消してもらいたい。(4)実験禁止のため国連が緊急総会など有効な手段をとるよう強く働きかけてもらいたい、と申込れた。これに対し官房長官は(1)外務省を通じて抗議した。(2)まだ考えていない(3)憲法解釈のちがいであり、とり消す意志はない(4)実験禁止は一般軍縮と切りはなせない。国連への働きかけは善処する、と答えた。

英首相に抗議電

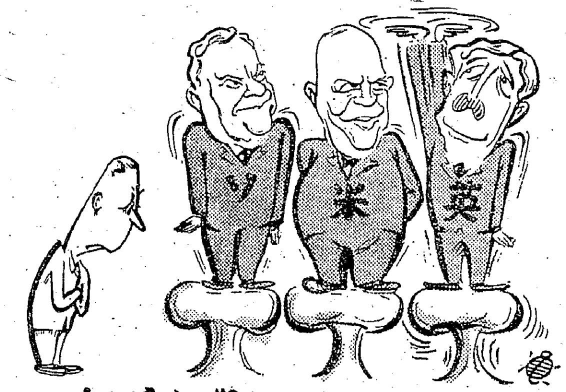
日本原水協は英国の水爆実験強行について、十六日マクミラン首相あてつぎのような抗議電を打つた

〇電文＝全国民を代表して、全世界の反対をおしきつて貴政府によつて行われた水爆実験に抗議する。日本国民は憤激をもつて抗議に立上りつつある。これ以上の実験を中止せよ。

〃早急に「實験禁止協定」を〃

日本原水協安井郁理事長は、十六日つぎのように語つた。

世界の世論を無視して実験が強行されたことは残念である。この実験は、世界世論と日本国民の憤激を一そうよびおこすだろう。これからの運動の方向としては、米英ソ三国に早急に実験禁止協定をむすばせることである。そのためには国連にも努力してもらわねばならない。さらにインドその他アジア諸国との提携を強めることがとくに重要だと思う。



—いやな背くらべだね……—

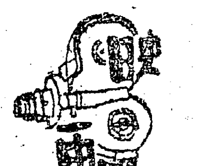
赤田公園川柳大会
綠ガ丘川柳會

綠ガ丘川柳同人約三十名は、五月十九日（日）の五月晴れに正午より荒尾市赤田公園に集まり、川柳大会を催した。それぞれの席題に苦吟するもの、早々と読み上げるもの等々、老人や子供もまじえての和気あいあいたる風景は頭と体のレクレーションとして明朗な一日を過した。なお当日の主催はみどりが丘川柳会。

失策 失策は失策も一度出直す気 大中 美風
〃 失策の反ばつ三塁打で返し 森田 杜人
とぼける 記者団はとぼける顔へ喰い下り 外山あき子
〃 とぼけてもおれず始末書書かされる 横田 聖平
漫画 落ちそうな漫画背の子寝たらしい 牛島 信夫
〃 漫画読み読み弟寝てしまひ 横田 礼子（緑小三年）
錠剤 錠剤は秘書の時計で呑む社長 大西 詩郎
〃 呑んだのはお湯錠剤は舌にあり 平野 破笠
寝不足 寝不足の思案へ茶柱しやんと立ち 益城しよう六
〃 寝不足の顔で色街屋となり 木永 奴歩
雑談 雑談の返事はニツコと笑ふだけ 楠本 柳風
〃 雑談は指で好きだと書いただけ 正光
予告 今日来ると云ふ別宅は風呂を炊き 黒仙
〃 立退きの予告が長屋デモにする 寺尾つよし
〃 出産は間近母よぶ便り書く 畑田 栄
心中 坊さんは彼の世で添えと三部経 霜田 安来
〃 心中へ先立つ不孝の字が乱れ 高田十四子
〃 心中の片割れと云ふ若き尼 高田 青史
時代吟追手 深編笠追手をさける露にぬれ しよう一
公認 ホツピング公認らしいアスファルト 平田 一柳
〃 押売りの何か知らぬが証明書 片山 玄風
〃 公認のそれから眼のない体 稲葉チエ子

川柳漫歩
〃委員会点描〃 三川支部 宮崎 天馬

〇よくシャベるのへ執行部聞きほれる
〇マイク不良教宣部長が番をする
〇拍手する数も代議士さんの弁
〇報告をメモする委員の手が追われ
〇議長そろそろ鼻ヒゲ立てようかと迷い
〇労働歌唄う議長の歯がキラリ
〇用で出た議長へ張り切る副議長



庶民の喜怒哀樂を描く「糞尿譚」

若松を舞台にした火野葦平の出世作「糞尿だん」（第六回芥川賞受賞）で延四十日にわたる現地ロケののち完成したもの。

話はいまから二十余年前の昭和十一年、先祖代代の田畑を売り妻子と別居までしてボロトラツク一台を元手に「衛生舎」というくみ取業に打ち込んだ中年男、小森彦太郎（伴淳三郎）気の小さいお人好しもの。いつもくみ取先で痛みつけられているので組合をつくろうとする。彦太郎の後援者であり市の有力者赤瀬（柳永二郎）と同じ有力者で民政党の友田（小沢栄）は反目の仲。友田は小森が憎くて組合の結成を失敗させてしまう。帳簿一ツない彦太郎のやり方に目をつけた赤瀬は自分の娘婿で経理にくわしい阿部芳之助（森繁久彌）を紹介し、早速くみ取料値上げ嘆願書を市役所に出させる。嘆願書は忽ち各方面に多大の反響をまき起し、日ならずして増額は決定する。阿部は「衛生舎」を市に買収させる運動をはじめた。何にも知らない小森は疑わない。ある日実印をもつてこいというのであわてて行くと買収の際の権利金は赤瀬五割、阿部二割五分、小森二割五分という話だつた。

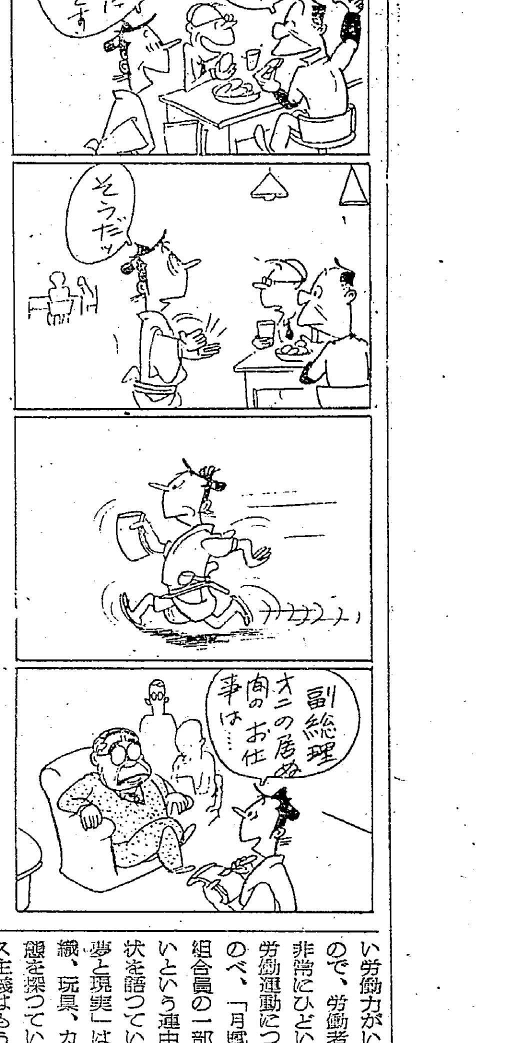
いままで一生をこの事業に賭し、あらゆる侮辱に耐えてきた彦太郎は余りのことに啞然とするばかりか、魂が抜けたごとく抗弁する気力も失い、悄然と引退るのだつた彼に同情的だつた市衛生課長杉山（渋谷天外）もいざとなると冷たい。

彦太郎は「衛生舎」は今日かぎりとばかり早朝よりくみ取つた糞尿を処理しにいつたところ友田一味が糞尿をうめている。あまつさえスコツプを振上げての妨害にさすがお人好しの彦太郎もついに怒りを爆発、長い糞尿ヒシヤクをとるや黄金水を雨のごとく友田一味の頭上えまき散らし、自らも返り糞尿を浴びたがものともせず「自分の敵は自分で征伐する」と叫ぶ、市役所に向う途中、芸者連れの阿部と会い肥ダルを落す市役所では衆人監視のうちに売買契約書を破りすてるのだつた。

英雄でもなければ才人でもない愚直な主人公が周囲の権勢や欲望の渦中にまき込まれて苦闘する姿がよく描かれており風格ある喜劇をつくりだし、庶民の哀歓がにじみ出ている。

（上映時間一時間四十五分、二十八日より大天地）

長屋太平記
中村かめお



書評
マツカーシズムの糾弾
六月号の総合雑誌

都留、ノーマン事件が今月の最大の焦点。『中公』が特集し『世界』が多くの頁をさいたほか『総合』『文春』もそれぞれとりあげている。その多くがマツカーシズム糾弾に向いているのが特徴。『中公』『世界』が収録した「都留証言」「エマーソン証言」全文は貴重な資料。ほかにヒユーバーマンが『世界』『総合』で語つている憲法をとりあげたのは『世界』だけ。

世界 特集は「国民の憲法—その十年の歩み—」。恒藤恭「平和憲法と国民の真情」は憲法改正論を批判しながら「憲法の根本精神がよく説き明かされるならば圧倒的多数の国民の真情はこれに共鳴するに相違ない」といつている。長谷川正安「憲法記念日」は記念日の歴史をたどつて政府の態度の変化を追つている。ほかに星野安三郎「日本国憲法の生誕」や座談会「生活の中の憲法」。都留事件については大内兵衛「都留君の証言」がはげしくマツカーシズムを非難し、清水幾太郎は「都留君について」「一九三〇年代のアメリカの残像」をもつていたとのべている。渡辺一夫、中野好夫、丸山真男らがありし日のノーマンをしのんでいる。ほかにヒユーバーマンと城戸又一の対談「社会の進歩と言論の自由」など。（岩波書店刊・一三〇円）

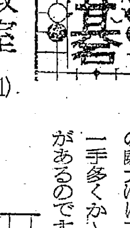
中央公論『いわゆる都留証言の真相』を特集。鶴見俊輔が米国上院国内治安委員の職業検事的な尋問と、都留氏の証言を分析しながら都留事件は「自由主義者の試金石」であつたと書いている。南博は「知識人の共通の敵」日本のよき理解者であつた「ノーマンの死とその背景」を陸井三郎が書いている。ほかに良心にかけてウソをついている〃消えた警官〃戸高にふれて中野好夫「菅生事件の〃戸高節〃」為我井忠敬、前田寿、三宅泰雄などの座談会「原水爆実験を防止できるか」かつて対日理事会の英連邦代表であつたW・マクマホン・ボールの特別寄稿「日米安保条約は改正すべきか」変つたところで全購連の汚職にふれた近藤康男「農民のための汚職」大塚久雄、きだみのる対談「文化国家の足の裏」など（中央公論社刊・一五〇円）

文芸春秋 岩立一郎「生きている『魔女狩り』」は都留事件にふれて米国の委員会の内幕を三世紀前の迷信と無知がもたらした魔女狩りそのものだといつている。元第五福竜丸操機手鈴木鎮三は「死の灰と共に生きる」でノーモア・ビキニを訴え、林克也が原水爆戦争と国防についてとく「来るべき百秒間戦争」は一読しておきたいもの。変つたところで相撲界の革命児天竜三郎がえぐる「読物・大日本相撲協会」桑原武夫「西堀南極越冬隊長」など。（文芸春秋新社刊・一〇〇円）

総合 ヒユーバーマンが「世界における労働運動」を語つている。インドについては「農村から新しい労働力がいくらでも入つてくるので、労働者の労働条件や賃金は非常にひどい」といい、アメリカ労働運動については簡単な歴史をのべ、「月賦制度が発展したため組合員の一部にはストはしたくないという連中がふえた」という現状を語つている。ルポ「町工場の夢と現実」は出色。下請機械、機織、玩具、カメラ下請業などの実態を探つている。特集は「マルクス主義はもう古い?—資本主義の現段階—」。堀江忠男氏らの論文や東畑。木村氏らの座談会など。ほかに加藤、堀田、梅棹の座談会「文明の系譜と現代的秩序」など（東洋経済新報社刊・一三〇円）

＝短信＝

〇五月十九日 四山支部大島一分会行動隊と地域役員約五十名は高瀬保養所で一年間の反省会を行つた。
〇五月十九日 三川大谷分会では山神祭の後運動会を行つた。
〇五月十九日 大谷分会では写真サークル主催で写真展を行つた
〇五月二十日 宮浦少年野球大会優勝戦を天道小学校で行い馬渡チームが優勝した。
〇五月二十六日 四山支部敷島、山吹分会では運動会を行う。
〇五月二十六日 日本棋院荒尾支部では移転記念の囲碁大会を午前十時から同支部で行う。



圍碁教室 (11)
「ポン抜き三十目」

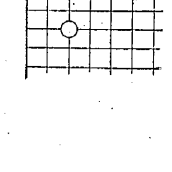
第一図、これもポン抜きですが、前回述べたのとは大分価値が違います。隅に押込まれているポン抜きでその威力のおよぶ所がなく価値が非常に小さくなっています。

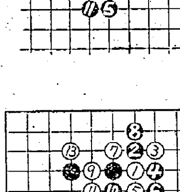
第二図、目ハズシ定石の一つですが、黒1と打抜いた所はこれもポン抜きですが、このような形をとくに「五手ポン抜き」といつて、前回述べたポン抜きに比しやゝ劣ります。ポン抜きの威力には大差ないのですが、一手多くかゝつている所に不満があるのです。

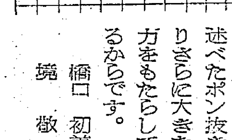
「二目ポン抜き」

第三図、白1とつけてゆくのはこのような場合の常用の手段です。白は8迄と隅に振変つたのですが、これは白が悪いのです。黒12と二目を打抜いた形は俗に「亀の甲抜き」といつて、黒の中央の威力は絶大で、前回述べたポン抜きよりさらに大きな勢力をもたらしているからです。

樋口 初段
塊 敬一


ヤ一図


ヤ二図


ヤ三図